

2022年2月24日

2021年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
課題研究

父親の産後うつの啓発のための教育媒体の開発
— 生後1年以内の児をもつ父親に向けて —

Development of Educational Media to Raise Awareness of
Paternal Postpartum Depression
: for Fathers during Baby's First Year

20MW012
西坂莉子

要旨

【目的】

父親が産後うつを発症した場合、治療が遅れると本人だけでなくパートナーや子どもに対しても長期的に悪影響を及ぼす可能性がある。本研究の目的は、一般の父親を対象に、父親の産後うつについての知識・認識の向上を促すリーフレットを開発することである。

【方法】

研究デザインは、リーフレットの開発と評価を行う開発研究である。父親の産後うつについての先行研究および産後うつに関連した既存の媒体を参考に、試作版リーフレットを作成した。試作版リーフレットは、父親の産後うつの有病率、要因、症状、影響、治療/介入についての 5 要素を中心的な内容として構成した。評価として、産婦人科医師、助産師、一般の父親を対象に、媒体の見やすさ、使用する用語の適切性やわかりやすさ、内容の適切性、情報の量、教育媒体としての有用性、産科施設における実行可能性の 6 点をふまえたインタビューを行った。インタビューから逐語録を作成した後、インタビューガイドの項目に沿って意味内容を分析し、教育媒体としての改善点を抽出した。その結果をもとに、修正版を作成した。

【結果】

評価者として、周産期メンタルヘルス外来などの周産期精神科診療に携わり、父親の産後うつへの診療経験をもつ産婦人科医 1 名、周産期の父母に対し、妊婦健診や両親学級等で日常的に関わりをもっている助産師 1 名、生後 1 年以内の児の父親 2 名にインタビューを実施し、試作版リーフレットに対して概ね肯定的な評価を受けた。特に媒体の見やすさ、教育媒体としての有用性についての意見が多かった。一方で、一部のレイアウト、また影響の内容や相談先の記載方法に関しては改良点が挙げられた。

【結論】

父親の産後うつの啓発を目的としたリーフレットにおいて、試作版リーフレットは概ね良いと評価された。評価に基づき改良点を明らかにし、より見やすく、啓発効果の高い媒体とするための示唆を得ることができた。また媒体の配布方法として、出産前教室や一般の産科外来での配布、分娩予約時に配布する説明資料への組み込み、外来への設置という意見が得られた。また、オンラインで利用可能なリソースの開発・活用、母親の産後うつの啓発活動との連携による、今後の更なる活用の可能性が示唆された。